

シンポジウム：「変わる入試と授業の改善」


金子幹夫（神奈川県立三浦初声高等学校）

現場からの提案3

シンポジウム：「変わる入試と授業の改善」 2019年12月26日(木)
慶応義塾大学

高等学校
「新テストの理念を活かす授業改善の試み」

金子幹夫（神奈川県立三浦初声高等学校）



本資料は「現場からの提案3」のスライドに簡単なコメントを書き込んだものである。一枚一枚のスライドにおいて発信したメッセージを後ほどお読みいただけたら幸いである。

私の役割を説明します。

先ほどの杉浦教諭（東京都立井草高等学校）の提案は新テスト受験者を意識したものでした。

ところが、すべての高校生が新テストを受けるわけではありません。

高等学校卒業生約100万人のうち、50万人弱が新テストに出願するとします。残り50万人の高校生は受験しません。

私の所属は農業高校である。地元の農業後継者を育てること、地域の農業に貢献できる人を育てることを目標にしている学校である。ここ10年間でセンター試験受験者は一人もいない。

私の役割を説明します。

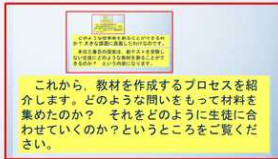
先ほどの杉浦教諭（東京都立井草高等学校）の提案は新テスト受験者を意識したものでした。

ところが、すべての高校生が新テストを受けるわけではありません。

高等学校卒業生約100万人のうち、50万人弱が新テストに出願するとします。残り50万人の高校生は受験しません。

しかしこのテストを受けない生徒にも、新テストが求めている力をつける必要があります。どのようにして「知識・技能」を活用した考察力(思考力・判断力・表現力)を育てることができるのでしょうか？この一提案をすることが私（金子）の役割です。

そのような中で新しいスタイルの授業案を創ることができるのかという大きな課題に直面した。本日三番目の提案は、新テストを受験しない生徒にどのような教材を創ることができるのか？という内容になる。



これから、教材を作成するプロセスを紹介します。どのような問いをもって材料を集めたのか？それをどのように生徒に合わせていくのか？というところをご覧ください。

教材作成をはじめたのは
2019年10月18日でした

これから、教材を作成するプロセスを紹介する。どのような問いをもって材料を集めたのか？それをどのように生徒に合わせていくのか？というところを見ていただきたい。具体的な役割の内容は左のスライドに示した。

本日提案する教材は2019年10月18日に作成をはじめた。



神奈川県立三浦初声高等学校
公民科 金子幹夫と申します



自ら学ぶ力を育て、
次代に有為な
人を創る
三浦初声高等学校

あらためて自己紹介と所属の紹介をする。教材作成の第一歩は生徒の状況把握である。どのような生徒を対象にしたのか？という生徒のイメージを共有した上で具体的な提案にうつることにする。



<https://hiratsuka-ah-b.pen-kanagawa.ed.jp/educational/sizenntonougyou/sizenntonougyou.htm>最終閲覧日2019年12月12日

新テストを意識した
教材づくり・・・



それでは、ここからどのようにして新テストを意識した教材づくりを進めていったのかを日付順に報告する。

素材探し

新テキストを選んだ
教材づくり...

データや資料を読み解く力...とある
ということは...基盤のしっかりと
したテキストを見つける必要がある
テキストの条件は？

はじめにとりかかったのは「素材探し」である。学習の基盤を形成するためのテキスト探しである。これが決まれば、次は生徒の状況に合わせた方法論の検討になる。一番の条件は、「経済の考え方」を読み取ることができるものである。二番目以降の条件は左の上から二番目のスライドに示した。

素材探し

データや資料を読み解く...とある
ということは...基盤のしっかりと
したテキストを見つける必要がある
テキストの条件は？

短いこと！（長いと飽きてしまう）
面白いこと！
教科書に戻しやすい内容のもの

左の三条件を充たし都合のよい読み物などあるのか？というのが提案者がはじめにつきあたった壁である。ところが幸運なことに、わずか数日で本日紹介する読み物の活用を思いついた。この出会いは本当に幸運であった。

ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『レモンをお金にかえる法』河出書房新社
ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社

ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年と
ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年の表紙


左の二冊がその本である。
ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年とルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年である。

すでに一冊目は授業で紹介してしまっている

本実践では続編を
取り上げることにした

ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年と
ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年の表紙

実は、この時点（2019年10月）で二冊あるうちの前編はすでに授業で取り上げていたのである。ストーリーは生徒に受け入れられた。一時間の授業で学習することができ、教科書に戻すこともできた。この続編が新教材作成のもとになるテキストになると判断した。



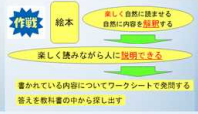
さあ、テキストは決まった！
これを**高校生に読ませる工夫**が必要だ！
「面白いから読んでみましょう…」では無理のようだ

作戦 絵本

楽しく自然に読ませる
自然に内容を**解釈**する

楽しく読みながら人に**説明**できる


書かれている内容についてワークシートで発問する
答えを教科書の中から探し出す



例えば…次のようなイメージでワークシートに答えてもらいます

この物語に書かれているインフレーションは〇〇のインフレーションだと思います。なぜならば教科書の△△ページに☆☆と書かれているからです。

論述



作戦 開始

絵本

楽しく自然に読ませる
自然に内容を**解釈**するとは？

取り上げるテキストは決まった。
次は、この素材をどのように高校生に読ませるのかという工夫が必要になる。前編は紙芝居のように読み聞かせをした。続編も同じように読み聞かせるとなると飽きてしまう生徒も出そうだ。「さあ、読んでみましょう！」とって全員が真剣に読むという前提に立ってはいけない。そこで次のような計画を立てた。

ここで本計画の全体像を示す。
第一に、本を楽しく自然に読ませる作戦を考える。全員に本の内容を解釈させることを目標にする。第二に内容を人に説明できるような機会をもうけるようにする。

次に、この本を読んだ内容を教科書にもどす。その際にワークシートを作成していくつか問題を掲載する。生徒はその問題に答えるにあたって「それは〇〇だと思います。なぜならば教科書の△△ページに☆☆と書いてあるからです」という形式を設定する。
ただ感じたことや思ったことを答えるのではなくテキストを根拠にして論じさせるという練習である。

それではここからは順番に、作戦をどのようにすすめていったのかをまとめることにする。最初の問いは「本をどのように楽しく自然に読ませることができるのか？」という大きなものである。

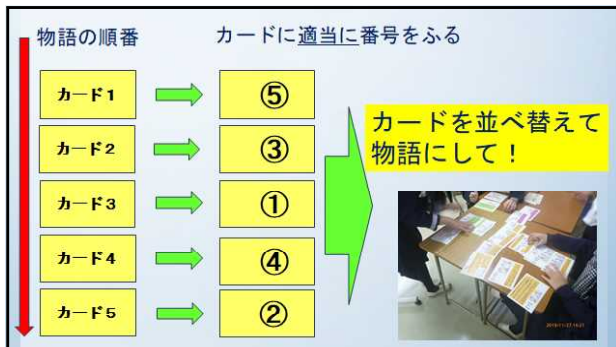
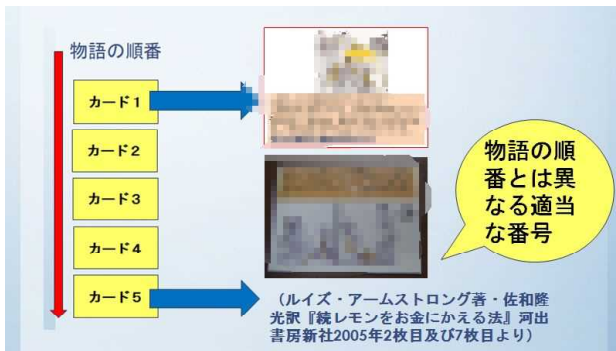
一週間経過

10月24日 18時00分～



ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年7枚目より

- 絵本をコピーして…
- スキャンして
- パワーポイントに貼って
- プリントアウトして…
- 一枚ずつ切り取って
- 厚紙に貼ると…カードのできあがり



教材作成に取りかかってからここまでですでに一週間が経過していた。どのように読ませるのか?

はじめに絵本のカード化に着手した。左のスライドにある順番で絵本の各ページをカード化していった。一ページ一枚のカードである。

カード化したら全部で25枚のカードが出来上がった。

実は、このカードには物語とは別の「ある情報」を書き込んで作成した。そのある情報とは…

一つひとつのカードに、物語の順番とは全く異なる番号を書き込んだのである。全25枚のカードをシャッフルして生徒に渡して「物語になるように並べ替えてください」と指示を出し、その番号をワークシートに書かせようという試みである。

この時点で想定している授業展開は次のとおりである。

- ①クラスをグループに分ける。
- ②カードの束をシャッフルした状態で渡す。
- ③各グループで話し合いをさせなが



ら並び替えを行う。

カードを読みこまないとストーリーは作れないので、皆が読むのではないかと考えたのである。

さっそくカードの作成に入った。
場所は事務室である。

第一作目・・・失敗。19時05分。

10月24日 19時00分

金子「カードができた！！やったー」
警備員さん「おもしろそうじゃないか。
でも・・・これカードが小さくて
よく見えないな・・・」



学校は17時を過ぎると警備員さんが来る。はじめてこのカードを見た人はどのような反応をするのかを知りたくて声をかけた。その結果、左のスライドのようなことが起きてしまった。つくりなおしである。

二週間後・・・

11月22日 教師を相手に
プレビュー



今度はカードを大型化した。

再度、大人を相手に感想を求めた。今回はベテランの「公民科」教師である。プロの「公民科」教師が並べ替えを行うとどういうことが起こるのか。生徒の読解力を育てる教材になるのだろうか？

判明した問題点

1. カードの数が25枚と多い。難しい！
2. カードとカードをつなぐ言葉がない
3. カードを並べ終えるまで約30分



約30分後に問題点が明らかになった。つまりプロのベテラン「公民科」教師は並べ替えに30分かかったのだ。これでは教室に持ちこめない。さらに左のような課題も明らかになった。

1. カードの数が25枚と多い。難しい!ということについて


カード1	カード6	カード11	カード16	カード21
カード2	カード7	カード12	カード17	カード22
カード3	カード8	カード13	カード18	カード23
カード4	カード9	カード14	カード19	カード24
カード5	カード10	カード15	カード20	カード25

1. カードの数が25枚と多い。難しい!ということについて

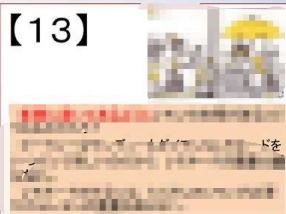
カード1	カード6	カード11	カード16	カード21
カード2	カード7	カード12	カード17	カード22
カード3	カード8	カード13	カード18	カード23
カード4	カード9	カード14	カード19	カード24
カード5	カード10	カード15	カード20	カード25

2. カードとカードをつなぐ言葉がない について

【6】



【13】



(ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年3枚目及び4枚目より)



最大の問題は、並び替えのきっかけがつかめないということであった。その一番の原因はカード枚数の多さである。そこでこのカードを大きく4種類の塊に色分けをしてみることにした。並び替えているうちに生徒の中から「これって色別になっているんじゃない?」と気がつく生徒が出てくるのではないかと考えたからである。全く並び替えることができないグループには教師の方から「あれ?色がたくさんありますね」と声をかけることもできそうだ。

もう一つの課題である「カードとカードをつなぐ言葉がない」ということに関しては、カードの一番最後のキーワードと次のカードの冒頭の言葉がリンクするように単語を書き加えてみた。

何の配慮もなくカードを渡しては教材にならない。一方で、あれもこれもと生徒に寄り添って成長することはできない。少し背伸びすれば手が届くというイメージでカードを加工することが必要だ。その前提条件は整った。

ここではじめて高校生にカードを渡してみることにした。ある日の放課後、教室に残っている生徒に声をかけた。いったいどのような反応を示すのだろうか?



判明した問題点

全く手を出すことのできない生徒がでた

登場人物が多くて何が何だかわからなかった。

はじめに誰が出てくるのかを示してくれたら参加できた

特定の色のカードが多すぎる

グループは四人まで！

登場人物カードを作成して黒板に貼ることにした

登場人物の顔と名前	登場人物の顔と名前	登場人物の顔と名前
-----------	-----------	-----------

ある特定のカードの色が多いということについて

カード1	カード6	カード11	カード16	カード21
カード2	カード7	カード12	カード17	カード22
カード3	カード8	カード13	カード18	カード23
カード4	カード9	カード14	カード19	カード24
カード5	カード10	カード15	カード20	カード25

生徒たちはすぐにカードを机の上に並べて順番の検討をはじめた。授業に持ち込む見通しがついた。

一方で多数のコメントをもらうこともできた。その趣旨は次のとおりである。

- ① 全く手を出すことのできない生徒が出た
 - ② 特定の色のカードが多すぎてわかりにくい
 - ③ グループは四人までにしないとさぼる人が出てしまう
- ①については登場人物を大きなカードにして示し、黒板に張り出すことにした。」
- ②についてはカードの色分けを四色から五色に変更した。
- ③については授業の進め方として指導案で反映させることにした。

ここまでは生徒に「読ませるための工夫」であった。テキストを読み込んだ高校生にどのような力を身につけさせるのか。これが次の課題となる。具体的には授業で使うワークシートづくりになる。物語に出てきた事柄が教科書のどの部分に書かれているのか。その意味する内容はどのようなものなのかを考えて示すことができる力を身につけさ

次はワークシートを作成して
新テストの求める力を育てる



『続・レモンをお金にかえる法』ワークシート

番号() 氏名()

ミッション1 カードを並べ直してストーリーを完成させよう!

例) 次のように記入してください

⑤→⑦→⑫→⑩→⑧→④→.....

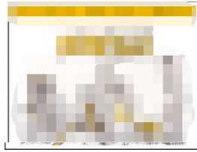
【番号を書くところ】

ミッション2 次の問題を考えてみよう。

- 考える前に確認しておきたいこと
1. この街は架空の街です
 2. 人、モノやお金の動きはこの街の中だけで行われていることにします
(よって、レモンが不作になっても隣の町や外国から輸入することは考えません)

【問題】

右の絵を見てください。
「インフレーション」という現象と書いてありますね。
このストーリーと同じパターンで物価が上昇しているものを次の中から一つ選び番号で答えてみましょう。また、どうしてそう考えたのかを教科書から探してみましょう。



(ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年7枚目より)

【6】



(ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年3枚目より)

せたい。

次はワークシートづくりになる。

ワークシートの冒頭はカードの並べ替えである。カードの番号を書き込ませるようにした。

次に、各設問に入る前に前提となる条件を整えた。想像力たくましい高校生は教師が投げかける問いにあらゆる方向から答えらしきものを発信する。

そこで次のように条件を整えた。

① この物語に出てくる街は架空のものであるとする。

② 人・モノ・お金の動きは、この街の中だけのものとする。

以上の条件をもとにいろいろな問題を考えてもらった。

左のカードに書かれていることが原因でレモンの価格があがった。これは下のパターン1・パターン2・パターン3の中のどれと同じ構造か。適切なものを選んでみましょう、と

いう問いを設定した。

- パターン1.** 景気がとてもよくなって多くの人々がモノやサービスを購入しようという欲求が高まるのが原因で物価が上昇した
- パターン2.** 日本銀行が世の中に出回るお金の量（通貨供給量）を増やした結果、多くの人々がモノやサービスを購入しようという欲求が高まるのが原因で物価が上昇した
- パターン3.** 国際紛争が原因で原材料費が値上がりし、あらゆる製品の生産量が減ってしまうことで多くの商品の価格が上昇した。

次に、このことが教科書のどの部分に書かれているのかを読み取らせた。ワークシートには次のような指示を書き込んだ。

どうしてそう考えたのかを教科書から探すと…次の二つの文を探すことができました。
ストーリーと同じ物価上昇を説明するのに適したものはどちらでしょうか？

番号で答えましょう。

<ヒントはそれぞれのページに隠されていますよ>

① 教科書124ページに

「現実の経済では、経済成長が単調に進むことはない。新技術などは、一斉に導入されるので、経済成長率は一時的に高くなる。この間、生産と雇用はともに増え、需要が供給を上回って、物価が上昇を続ける」と書いてあるからです。

② 教科書136ページに

「1973年の第一次石油危機では原油価格が4倍に高騰し、輸入量の減少ともあいまって日本経済は不況に陥った」と書いてあるからです。

選んだ選択肢は①・②のどちらかな？→



(ルイズ・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年14枚目より)

次の指示は失業保険についてである。左のカードを見てこの考え方に関連した記述を教科書の中から読み取らせるという問題を出した。具体的には下のようなものである。

① 教科書の57ページを見てください。
 左下にジョン＝ロールズという人の写真が出ていますね。
 ここに「公正としての正義」ということで第一原理と第二原理があげられています。
 第二原理を読んでみましょう。ここに書かれている考え方は絵と同じかどうかを考えてみましょう。

② 教科書112ページを見てください。
 下に世界恐慌の写真が出ていますね。
 13行目にはニューディール政策という用語が出ています。
 このニューディール政策は左側の欄外②でどのようなものなのかを説明しています。
 ここに書かれている考え方は絵と同じかどうかを考えてみましょう。

選んだ選択肢は①・②のどちらかな？→


どうしてそのページを選んだのですか？「決め手！」になった文を抜き出して書いてください。

なぜそう思ったのかというと…教科書（ ）ページに

と書いてあるからです。

ミッション4 次の問題を考えてみよう。
 並べ替えていく中で、つぎの絵がありましたね。
 この絵が示している内容と同じ考え方をしている文が教科書の中にあります。
 次の①、②の中から適切なものを選んでみてください。

【21】



(ルイス・アームストロング著・佐和隆光訳『続レモンをお金にかえる法』河出書房新社2005年14枚目より)

次の問題は「新しい仕事をつくりレモネードを買うためのお金を賃金として支払うという部分に注目する。この考え方と同じ構造のものが教科書のどの部分に書かれているのかを探するというのがここでのミッションである。ワークシートには次のような指示を出した。

① 教科書の128ページを見てください。

11行目に「日銀は、金融政策によって通貨供給量を調整し、景気や物価の安定をはかる」と書いてあります。ここに書かれている考え方は絵と同じかどうかを考えてみましょう。

② 教科書112ページを見てください。

下に世界恐慌の写真が出ていますね。

13行目にはニューディール政策という用語が出ています。

このニューディール政策は左側の欄外②でどのようなものなのかを説明しています。ここに書かれている考え方は絵と同じかどうかを考えてみましょう。

選んだ選択肢は①・②のどちらかな？→

どうしてそのページを選んだのですか？「決め手！」になった文を抜き出して書いてください。


なぜそう思ったのかというと…教科書（ ）ページに

と書いてあるからです。

このような経過を経て作成した教材を実際の教室で展開した。その模様を短時間ではあるが報告する。

どのように読ませるのか？
全員に読ませる方法は？
考え方をイメージさせる方法は？
きちんと教科書に戻す方法は？

多くの皆様に教えていただきながら作成した「新テストを受けないであろう生徒向け」新テスト風教材である。



新テストを受験しない多くの生徒にどのような教材開発を行うのか？さまよっている私と一緒に考えていただけませんか？

ご清聴ありがとうございました

金子幹夫 (神奈川県立三浦初声高等学校)

まだまだ改良する余地がたくさん残されている教材（案）である。多くのご教示いただけたら幸いです。

<メモ>